

送電線点検の作業効率を大幅に向上する画像処理システム

石野 龍一



送電線の点検は、従来は電線検査車による点検が行われていたが、近年は送電線の点検にドローンが活用されるようになってきた。ドローンによる点検は、従来の電線検査車による点検よりも、作業効率が大幅に向上する。電力中央研究所では、ドローンによる点検の効率化を図るため、画像処理システムを開発している。



このシステムは、ドローンが撮影した画像をリアルタイムで処理し、電線の損傷箇所を自動的に検出する。これにより、点検作業の効率化が図られる。また、ドローンによる点検は、危険な作業を減らす効果もある。

2011年2月号・日経サイエンス2ページ

地域のニーズに応える新しい景気指数の研究開発

林 元就



地域ごとの景気動向を把握し、経済政策の立案に役立つデータを提供するために、電力中央研究所では、新しい景気指数の研究開発を進めている。この指数は、地域の産業構造や人口動態に基づいて算出される。従来の景気指数とは異なり、地域固有の特徴を捉えることができる。電力中央研究所では、地域経済の活性化を図るため、この新しい景気指数を活用することを期待している。



この新しい景気指数は、地域の産業構造や人口動態に基づいて算出される。従来の景気指数とは異なり、地域固有の特徴を捉えることができる。電力中央研究所では、地域経済の活性化を図るため、この新しい景気指数を活用することを期待している。

2011年4月号・日経サイエンス2ページ

独自のアプローチで全固体型リチウム二次電池の実用化を目指す

小林 雄



安全かつコストを削減するために、全固体型リチウム二次電池の実用化を目指す。電力中央研究所では、独自の技術を用いて、全固体型リチウム二次電池の開発を進めている。従来のリチウムイオン電池と比較して、安全性が高く、エネルギー密度も高い。また、コスト削減にも貢献できる。電力中央研究所では、この新しい電池の実用化を図ることを目指している。



この電池は、安全性が高く、エネルギー密度も高い。また、コスト削減にも貢献できる。電力中央研究所では、この新しい電池の実用化を図ることを目指している。

2010年10月号・日経サイエンス2ページ

定期的な長期観測データが大気環境研究の礎を築く

志和 達彦



大気環境研究の基礎となる、定期的な長期観測データを構築する。電力中央研究所では、大気環境研究の基礎となる、定期的な長期観測データの構築を進めている。このデータは、大気汚染の発生メカニズムを解明するための重要な手がかりとなる。電力中央研究所では、大気環境の改善を図るため、このデータを活用することを期待している。



このデータは、大気汚染の発生メカニズムを解明するための重要な手がかりとなる。電力中央研究所では、大気環境の改善を図るため、このデータを活用することを期待している。

2010年12月号・日経サイエンス2ページ

電力中央研究所

- (シリーズ8点)
- 企画 電力中央研究所 広報グループ
- 制作 日経ビール、アドパンプルス
- CD 明 秋彦 (アドパンプルス)
- AD 依田真実 (アドパンプルス)
- D 今村京子 (アドパンプルス)
- Pr 小林直樹 (日経ビール)
- C 阿久澤裕樹
- P 志和達彦